

花の実園へゴール、ボールなど

習志野市サッカー協会

習志野市サッカー協会は、このほど社会福祉法人習愛会・花の実園に、コロナ禍で様々な行動が制限されている障がい者がサッカーを通して心身のリフレッシュとストレスの緩和を図ってもらいたいとサッカーゴールとボールを寄贈した。

花の実園は障がい者が地域で暮らしながら通所し、笑顔で楽しく生きがいを持って生活できるよう、日常生活支援、生産活動や就労の機会、創作活動など、一人ひとりの生きる力と自立に必要な福祉サービスを提供している。サッカー協会では、誰もが純粋にスポーツを楽しみ、障がいのある人もない人も心が通うまじくの実現への思いを「行動と形」で示そうと、習志野市へ寄付を申し出た。



サッカーゴールとボールの贈呈式

サッカー協会からの依頼で、袖ヶ浦サッカー場の整備を20年以上行い、茜浜近隣運動公園でも連携して除草、清掃などの仕事をしている。猛暑や酷暑の中での整備作業では、協会関係者や選手から感謝や励ましの言葉もあり、利用者にとって励みとなっているという。

コロナ禍にあって、花の実園でも前年は宿泊旅行、日帰り旅行をはじめ、スポーツ大会やさくらまつりなどが中止となった。現在の利用者は100名。感染症防止対策を徹底し、感染者は一人も出ていないが、「行事ができなくて楽しみがなくなりました」という声もあり、気持ちが上にくく伝えられずに我慢してしまっ、気分転換が苦手で不安定になってしまう利用者が少なくないという。

「サッカーゴールの贈呈式は5月28日、園庭で催された。利用者の松森まゆみさんと阿部翔子さんが司会を務め、感染予防対策への協力を伝え、開式の言葉が述べられた。」

サッカー協会の片桐正広会長が宮本市長に寄贈品の目録を贈呈。片桐会長は「みなさんにぜひ楽しんでもらいたいと寄贈しました。協会でもフットサル大会などを企画するので参加して一緒に楽しんでほしい」と語りかけた。

リフティングを披露する古澤選手



花の実園の松本榮園長は「コロナ禍で楽しいことがなく、みんなの気持ちがふさいでいるという話をサッカー協会の人にしたところ、何か元気になれることをお手伝いしたいと、寄付につながり、身体を動かしたい、元氣よくやりたいという気持ちを受け取ってもらえました。ボール一つでみんながこんなに笑顔になって、園庭を走り回る姿を見てうれしかった。気持ちを前に向けてコロナを乗り越えていきましょう」と挨拶した。

贈呈に対し、花の実園の利用者を代表して、山本真生さんと三代川堅哉さんが

市役所で「おもてなし消毒活動」

習志野市インフラ協議会



「おもてなし消毒活動」の参加者

市内の都市生活を支えるガス・水道工事業者12社で構成される習志野市インフラ協議会は6月18日早朝、習志野市役所で「おもてなし消毒活動」を行った。

「おもてなし消毒活動」は、協議会の会員企業が始業前にできる奉仕活動として提案され、昨年11月に続いて2回目。開庁時刻前、グランドフロアの市民窓口フロアと1階の健康・福祉フロアのカウンター、テーブル、椅子などがアルコールスプレーで消毒され、手すりや案内板など細かいところまで丁寧に拭かれた。今回は梅雨を迎え、換気がしにくい時期に感染症対策の一助になればと取組

「サッカーゴールとサッカーボールをいただき、ありがとうございます。大事に使っていきます」とお礼を述べ、サッカー協会関係者ら出席者には、花の実園で栽培された花の鉢植えが贈られた。

当日は習志野シティFCの古澤慶太選手が登場し、利用者とのミニゲームに参加した。園庭はミニサッカー場に変身し、全国クラブ

チーム選手権県予選で決勝点ストライカーとして活躍した古澤選手が、リクエストに応じてリフティングやシュートを披露した。

花の実園では、利用者が練習できる機会を設けている。サッカーは身体を動かす意欲や楽しみ、笑顔を得られ、遊ぶ、練習する、応援するなど、働く事以外での成長が期待できるとしている。

まれ、会員のほか、宮本市長と市役所の職員、庁舎管理会社も参加した。宮本市長は「活動を心強く思います。全力を上げてワクチン接種が完了するように努力していきます」と述べた。

協議会の岩井健会長は「高齢者へのワクチン接種が進んでいますが、まん延防止等重点措置の適用が継続されることになりました。こうした状況ですので、来庁する市民のみならずが消毒活動によって少しでも安心できたらいれ幸いです。終息を願っておりますが、必要があればこうした手助けを会員各社と続けていきたい」と話した。

バス停らか所にベンチ

秋津コミュニティ有志が設置

秋津コミュニティの有志によって、バス停留所5か所にベンチが設置された。

以前からのベンチは秋津2丁目に住む橋本昇さんの厚志によるものだった。学徒出陣し、終戦後、朝鮮半島の元山基地から空路、本土に帰還したという逸話を持つ橋本さんは、地域の人からも慕われ、90歳を迎えた時はお祝いの会が開かれた。この卒寿のお祝いを地域のために役立ててもらいたいと全額寄付し、団地中央、秋津小学校前など3か所にベンチが作られた。

ベンチはバスを待つ人たちには重宝がられたが、老朽化したことなどによって、一時撤去された。地域の人たちからはベンチを再び設置してもらいたいという声が上がった。

製作・設置のメンバーには設計を担当した坂本正樹さんをはじめ、建築士や施工の経験者があり、設置のためにレベルや高さを調整。力を合わせて穴を掘り、砂利を入れ、モルタルで基礎を固定し、地域のために汗を流した。

津田沼高校前からバスを利用する女性は「一人にやさしいみなさんご厚意です。ベンチが新しくなってくれたい」と話していた。

声が上がると、そこで秋津コミュニティの有志が、既存のベンチを補修し、秋津連合町会も材料費を負担して、要望のあった新習志野方面の津田沼高校と秋津小学校の2か所のバス停には、新たに作られた木製のベンチが置かれた。



秋津小学校バス停で新しいベンチの設置を終えて



設置工事の様子

救急隊員の感染対策に 千葉県調教師会マスク寄贈



習志野市消防本部でのマスク寄贈

千葉県調教師会から5月21日、習志野市の救急隊員に役立ててもらいたいと新型コロナウイルス感染症対策に用いるN95マスクが贈られた。

千葉県調教師会は船橋競馬場に所属する調教師で構成され、会員数33人。長引く新型コロナウイルス感染症

症によって、市民生活が大きな影響を受けている現状を受け、「地域貢献の一環として、住民の安全・安心を守る救急隊員などの活動を支援したい」という意向から贈られた。寄贈されたマスクは10万円相当。

贈呈は習志野市消防本部で行われ、調教師会からは林正人会長、齊藤敏副会長が、また千葉県競馬組合議会議員の宮本博之市議会議員が出席した。

林会長は「日頃は船橋競馬を開催させていただき、地域の皆様には大変お世話になっております。コロナ禍にも関わらず競馬は開催され、われわれ関係者は安堵しております。これも皆様方の協力があったことと思っております。この度、日々市民のために奔走していただいております救急隊員の方々のお役に立てばと思います。日頃の感謝を含め、今回、このような形で支援させていただきます。これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます」と挨拶した。

宮本市長は「感染対策の品物をお贈りいただき心から御礼申し上げます。限られた状況下で、ご尽力している船橋競馬に敬意を表します。これからも連携、指導をお願いします」と述べ、「習志野市の行政運営に寄与する一芳意に対し、感謝状を贈った。」